

筑後川水系切通川

広域基幹河川改修事業

事業目的

流下能力不足による浸水被害が発生

平成2年7月洪水

浸水戸数 床上3戸 床下124戸

浸水面積 270ha

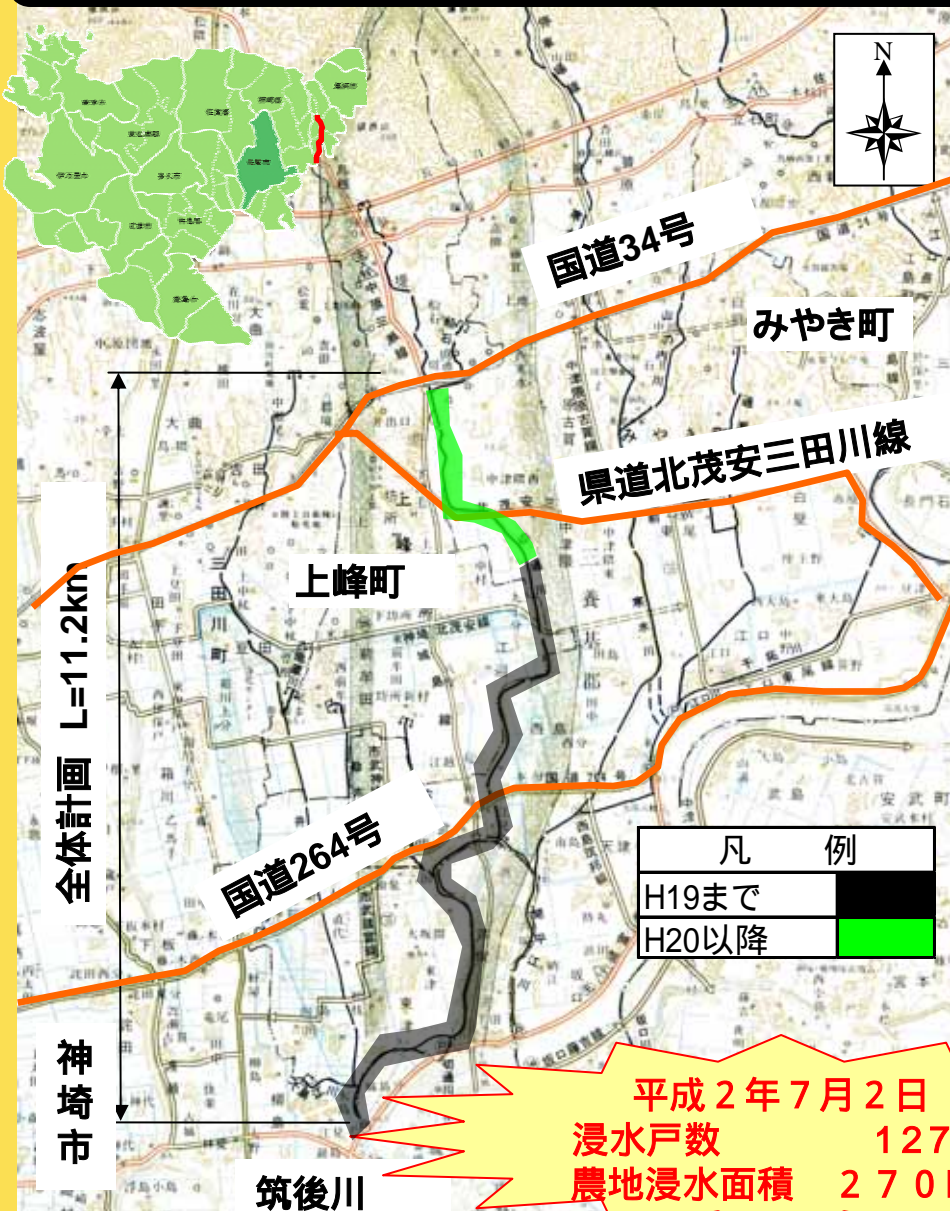
浸水被害の軽減を図る

- ・流路是正、狭窄部解消を実施
- ・治水安全度の向上を図る

計画流量 $110\text{ m}^3 / \text{s}$

計画治水安全度 $1 / 30$

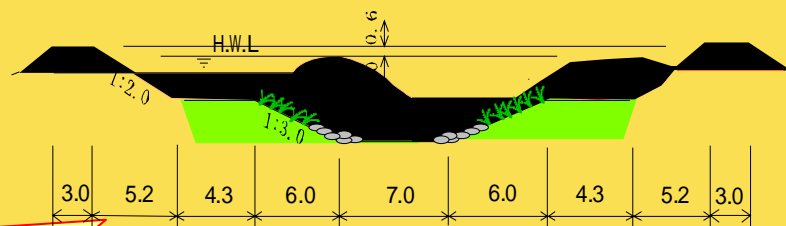
切通川広域基幹河川改修事業 着手年：昭和50年度 事業地：神崎市、みやき町、上峰町



事業概要

- ・全体事業費 13,000百万円
- ・事業期間 S50 ~ H35
- ・改修延長 11.2km
- ・計画流量 110m³/s
- ・計画治水安全度 1/30
- ・掘削・築堤・護岸、橋梁13基、堰8基
- ・費用対効果 6.1

標準断面図



平成2年7月2日
 浸水戸数 127戸
 農地浸水面積 270ha

事業進捗状況(切通川)

切通川 広域基幹河川改修事業 L= 11.2 km

整備実施区間(暫定改修) L= 8.6 km

未改修区間
L= 2.6 km

国道34号



事業進捗状況

- ・筑後川合流点から舞郷橋下流までの約 8.6 kmについて、暫定改修(1/10計画)が完了している。
- ・平成19年度末進捗率 75%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 2.3%

— 完了区間
— 未完了区間

費用対効果 B / C

総費用額C：治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B：治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年までの総便益額 (被害軽減額)

(総費用額C及び総便益額Bをそれぞれ現在価値化し比較する)

総費用C：23,433百万円

総便益B：143,038百万円

(内訳)

・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産)	50,010百万円
・農作物被害(水稻、畑作物)	2,663百万円
・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁、農地等)	84,713百万円
・間接被害(事業所の営業停止被害、応急対策被害等)	5,652百万円

費用対効果

$$B / C = 143,038 / 23,433 = \underline{6.1}$$

切通川 破堤状況

平成14年9月16日～17日
(秋雨前線豪雨)

(鳥栖土木事務所雨量観測所)

最大日雨量: 165 mm (同観測所既往第5位)

時間最大雨量: 63 mm (同観測所既往第2位)



凡 例	
H19まで	■
H20以降	■

平成9年7月7日～8日(梅雨前線豪雨) 切通川

みやき町中津隈



最大日雨量143mm
時間最大雨量27mm
(鳥栖土木事務所雨量観測所)



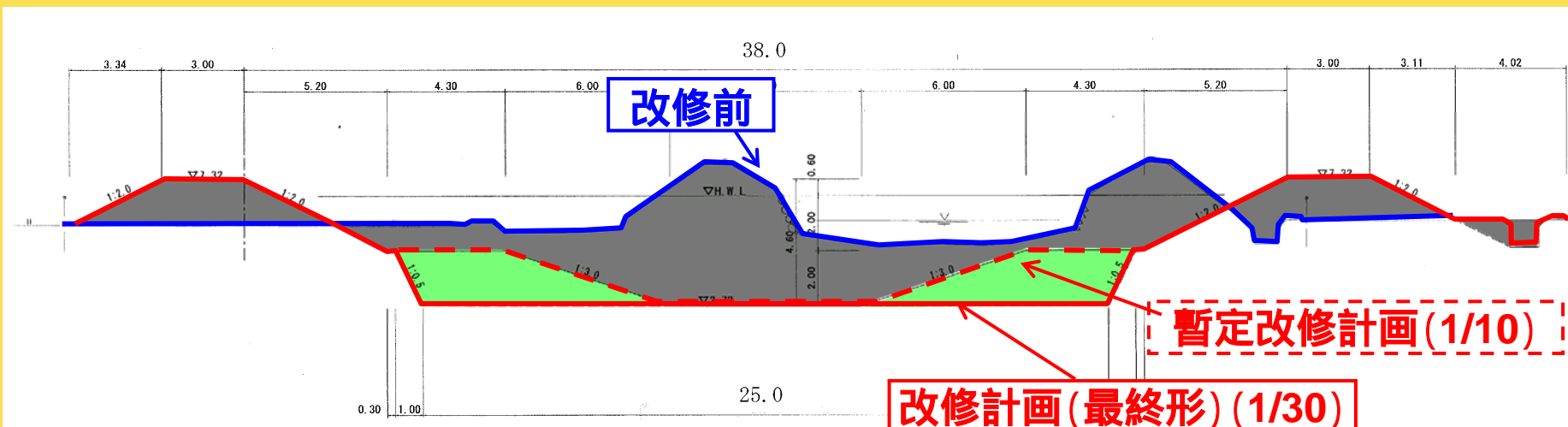
(国道264号より上流)



県道北茂安三田川線(中津隈橋)
(みやき町中津隈)

整備区間状況(中流部)

国道264号直上流

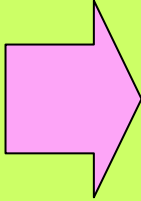


完了区間状況

九丁分橋



改修前



改修後

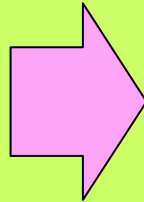


完了区間状況

九丁分堰



改修前



改修後



未改修区間状況(上流部)

国道34号より下流の堰



既設の堰があり、河川断面が狭小

国道34号直下流



上流区間(現況)は、川幅が狭い

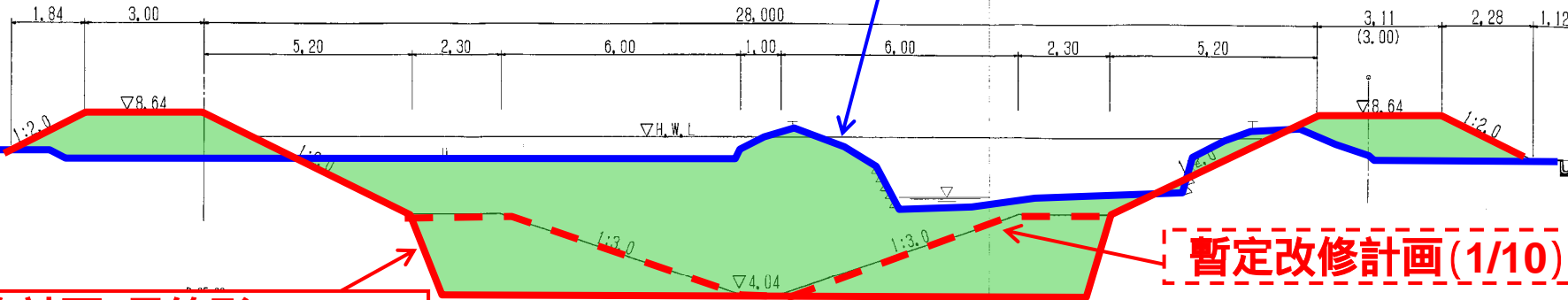
9/450

PH=7.50
FH=8.64

改修前

暫定改修計画(1/10)

改修計画(最終形)(1/30)



今後の切通川広域基幹河川 改修事業の継続について

河川改修の効果

治水安全度の向上

まずは、暫定計画(1/10)による改修を進め、
早期事業効果の発現を図りたい。

その後は、1/30計画での整備を実施し、
治水安全度の向上を図りたい。

平成2年7月洪水による

浸水被害 127戸

浸水面積 270ha

の軽減

地域住民の安心・安全の確保

今後の事業展開

事業を継続し、早期完成を図りたい。